

【番組名】群馬テレビ「ビジネスジャーナル」

【放送日】2024年4月19日(金)

【テーマ】日銀短観でみる県内経済の足取り

(キャスター)『プラスオピニオン』のコーナー。日本銀行前橋支店長の肥後秀明さんに『日銀短観でみる県内経済の足取り』というテーマでお話をうかがいます。よろしくお願いします。

(肥後支店長) よろしくお願ひします。日本銀行では、4月1日に「企業短期経済観測調査」、いわゆる日銀短観を公表しました。日銀短観は、3か月に一度の調査で、全国では約1万社を対象に業況感や売上高などを調査しています。本日は、群馬県内の約180社を調査した結果をご説明します。

(キャスター) 前回の調査は12月でしたね。

(肥後支店長) はい。こちらをご覧ください。

最近の金融経済環境	
地域	出来事
米国	(1月) 政策金利変更なし
	(3月) "
欧州	(1月) 政策金利変更なし
	(3月) "
	(4月) "
中国	(1月) 預金準備率 ▲0.50%引き下げ
	(2月) 最優遇貸出金利(5年)▲0.25%低下
日本	(3月) 日経平均株価が初めて4万円越え
	" 春闘で賃上げ率が高い伸び
	" 日銀:金融政策の枠組みを見直し
	" 為替相場は円安傾向へ

(肥後支店長) 前回の12月から今回の3月までの経済環境を振り返ってみたいと思います。欧米はインフレ率が低下し、政策金利は据え置きが続いています。一方、中国では経済の回復ペースが遅いため、預金準備率を引き下げたほか、最優遇貸出金利も引き下げました。堅調な米国経済と、回復の遅れが続く中国経済という違いが引き続きみられています。

(キャスター) 国内はいかがですか。

(肥後支店長) はい。国内は、3月に日経平均株価が初めて4万円を超えたほか、

春闘では大企業を中心に高水準の賃上げが相次ぎました。また、日本銀行では、3月19日に金融政策の枠組みを見直しました。この間、為替相場は円安が進みました。

(キャスター) そのような中で、今回の調査では、どのような特徴がみられましたか。

(肥後支店長) はい。こちらをご覧ください。これは、業況が「良い」と答えた企業の割合から、「悪い」と答えた企業の割合を引いた、業況判断D.I.という指標です。この数値が大きくなるほど、企業の景況感は改善していることを示しています。



(肥後支店長) 今回は、製造業が前回調査から悪化した一方、非製造業は改善し、全産業ではプラス3からプラス2と僅かながら悪化しました。

(キャスター) それぞれの要因はなんでしょうか。

(肥後支店長) はい。次のフリップをご覧ください。

	前回	今回	変化幅	企業のコメント
	23/12月	24/3月		
全産業	3	2	▲1	
製造業	▲5	▲10	▲5	<ul style="list-style-type: none"> <li>一部自動車メーカーの生産停止 (自動車、鉄鋼、非鉄金属、はん用機械)</li> <li>原材料価格の高騰分を価格転嫁できない (繊維、生産用機械)</li> </ul>
非製造業	13	16	+3	<ul style="list-style-type: none"> <li>人流の回復により イベント需要が増加 (対個人サービス)</li> <li>自動車の販売が増加 (小売)</li> </ul>

(肥後支店長) 製造業のD Iは、前回のマイナス5から、今回はマイナス10と、5ポイント悪化しました。一部の自動車メーカーの生産停止の影響が、幅広い業種に波及しています。このほか、原材料価格の高騰分を価格転嫁できないとの声も聞かれています。

一方、非製造業のD Iは前回のプラス13から、今回はプラス16と、3ポイント改善しました。これは、人流の回復によって各種イベント需要が回復していることや、自動車ディーラーの売上が回復したことなどが背景です。

(キャスター) 先行きはどうかでしょうか。

(肥後支店長) はい。先行きは、製造業は改善を見込む一方、非製造業は悪化を予想しています。こちらをご覧ください。

**業況判断D.I.(今回→先行き)**

	今回 24/3月	先行き 24/6月	変化幅	企業のコメント
<b>全産業</b>	<b>2</b>	<b>4</b>	<b>+2</b>	
<b>製造業</b>	<b>▲10</b>	<b>▲4</b>	<b>+6</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●一部自動車メーカーの生産停止の影響がなくなる (自動車、金属製品、はん用機械)</li> <li>●半導体需要が持ち直し(電気機械、化学)</li> </ul>
<b>非製造業</b>	<b>16</b>	<b>12</b>	<b>▲4</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●サービス需要の盛り上がり落ち着く (対個人サービス、宿泊・飲食サービス)</li> <li>●コスト上昇分を価格転嫁できるか不透明 (卸売、運輸・郵便)</li> </ul>

(肥後支店長) 製造業では、今回のマイナス10から先行きはマイナス4と、6ポイントの改善を見込んでいます。自動車関連の業種では、一部メーカーの生産停止の影響がなくなることを見込んでいます。また、半導体需要の持ち直しを予想する先もみられています。

非製造業は、プラス16からプラス12と、4ポイント悪化する見込みです。サービス業を中心に、人流の回復による好調な需要がそろそろ落ち着くのではないかと、といった声が聞かれたほか、各種コストの上昇分を価格転嫁できるか、懸念する先がみられています。

(キャスター) 企業のコスト上昇はまだ続いているのですね。

(肥後支店長) そうですね。こちらをご覧ください。このグラフは、企業の仕入価格と販売価格のD Iの推移です。数字が大きいほど「上昇」の動きが強いことを示しています。

## 価格判断D.I.(全産業)



(肥後支店長) 仕入価格D Iは、一昨年9月をピークに低下傾向を辿っていますが、先行きも多くの企業が仕入価格の上昇を見込んでいます。また、仕入価格D Iが50を超えている一方、販売価格D Iは30前後で推移しており、仕入価格D Iと販売価格D Iの大きな差は先行きも続く見込みです。コスト上昇分を価格転嫁できずに利益が悪化する企業は、今後もみられると考えています。

(キャスター) 価格転嫁できている先とそうでない先で、特徴はありますか。

(肥後支店長) はい。次のフリップをご覧ください。

## 2024年度・計画

(前年比、%)

	売上高	経常利益	企業のコメント
大企業	1.8	+8.2	●新規出店の効果(小売)
中堅企業	1.5	▲3.0	●原材料費や人件費の上昇 (窯業・土石、輸送用機械)
中小企業	1.4	▲5.5	●仕入価格の上昇(生産用機械、建設)

(肥後支店長) こちらは、2024年度の事業計画を企業規模別に集計したものです。売上高は、どの企業規模でも前年比プラスになっていますが、経常利益は、大企業がプラス8.2%の増益となっている一方、中堅・中小企業は仕入価格の上昇が続く中で、十分に価格転嫁でき



ないと想定している先がみられ、減益計画となっています。このことから、規模が小さい企業では、コスト高の影響で利益が悪化していることが窺われます。

(キャスター) このほかに特徴はありますか。

(肥後支店長) はい。次のフリップをご覧ください。このグラフは借入金利水準判断D.I.の推移です。数字が大きいほど、借入金利が「上昇」している企業が多いことを示しています。



(肥後支店長) 今回の短観では、日本銀行がマイナス金利政策などを見直したタイミングでの調査となりましたので、先行きの金利上昇を予想する先が多くみられました。借入を行っている企業としては、金利の動向は大変気にされていると思いますので、そうした企業の方々の不安な心理が顕れたものとみています。

(肥後支店長) もっとも、こちらのフリップをご覧ください。これは、マイナス金利政策などを見直したときに発表した公表文の一部ですが、私ども日本銀行は、「現時点の経済・物価見通しを前提とすれば、当面、緩和的な金融環境が継続する」とみています。群馬県内でも、企業の金利負担が急激に増加するような状況は想定しておりません。

## 金融政策

### 金融政策決定会合の公表文 <3月19日、抜粋>

日本銀行は、引き続き2%の「物価安定の目標」のもとでその持続的・安定的な実現という観点から、短期金利の操作を主たる政策手段として、経済・物価・金融情勢に応じて適切に金融政策を運営する。

現時点の経済・物価見通しを前提にすれば、当面、緩和的な金融環境が継続すると考えている。

(キャスター) それでは、最後に今回の短観結果についてまとめていただけますか。

(肥後支店長) はい。今回の短観では、製造業の業況が悪化した一方、非製造業の業況は改善し、全産業では僅かながら悪化しました。

こうした中、企業の2024年度の事業計画をみると、大企業が増益を予想している一方、中堅・中小企業は減益計画となっており、引き続きコスト高が企業収益を下押しすることが懸念されます。

(キャスター) 『プラスオピニオン』、「日銀短観でみる県内経済の足取り」をテーマに、日本銀行前橋支店長の肥後秀明さんにお話をうかがいました。ありがとうございました。

(肥後支店長) ありがとうございました。

以 上